



第7回東山関東フォーラム報告

日時 2014年10月25日(土) 11:00~13:00

場所 学士会館 307号室

演題 人に優しい 重粒子線がん治療

講師 藤田敬さん (S59年卒)

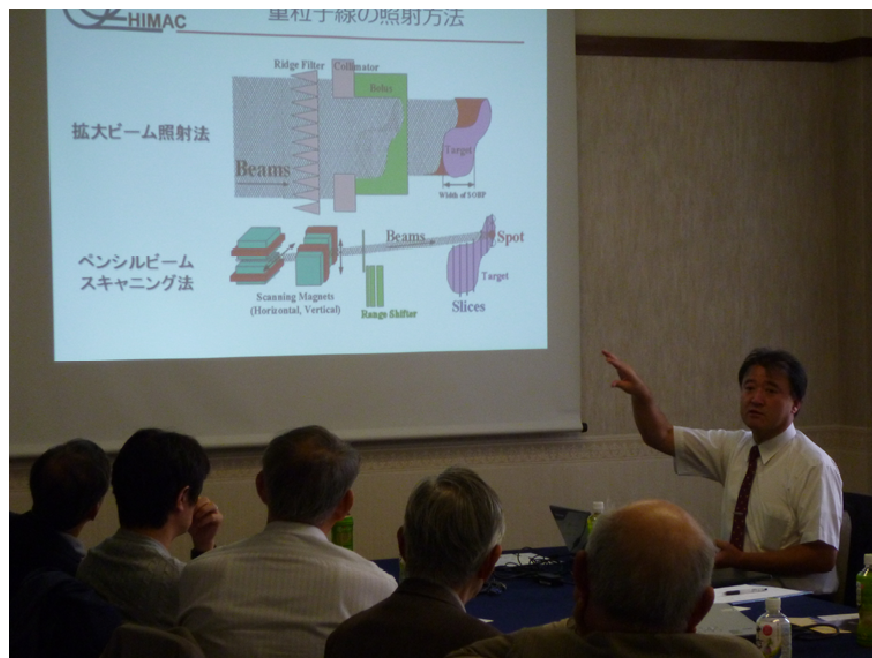
講演要旨

- 日本国民の疾病による死亡原因の推移
- 放射線治療の歴史
- がん治療における放射線療法 of 長所・短所
- 重粒子線がん治療の特徴・成果
- 普及のための取組み



日本の死亡率 No1 となったがん、その治療方法として患者の負担を軽減し、高い QOL (Quality of Life) を達成する重粒子線がん治療技術について、藤田さん (放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター 運営企画ユニット ユニット長) による講演を開催しました。

当日は 16 名の会員の皆様に参加して頂き、もはや他人事ではないがん治療の実態について、日頃の疑問、考えなど、活発な議論、意見交換が行われました。



<主な講演内容>

- 1980年代にがんは日本の死因別死亡率がトップになり、上昇し続けている。
- 1984年に第一次対がん10ヶ年総合戦略の一環で、重粒子線がん治療装置 HIMAC



(Heavy Ion Medical Accelerator in Chiba)の建設計画スタート。1994年より治療開始した。

- 放射線治療の利点:機能と形態の欠損が少ない、治療中の身体的負担が少ないなど。
- 重粒子線ががん治療に有効なメカニズム:がん細胞を狙い撃ちし、DNAを破壊。
- 放射線治療の歴史
- 臨床試験から先進医療として承認されるまで。
- 世界の粒子線治療施設(重粒子線、陽子線)、日本の技術について。
- 普及に向けた設備小型化、更なる患者負担を軽減するための次世代照射システム(3Dビームスキャニング、回転ガントリー)の開発の取り組み。



<質疑応答、議論など>

- がん細胞を狙い撃ちする方法、メカニズムについて。
- 健康保険適用の議論について。
- 適用できるがんの種類、生存率などについて。

など

以上

土屋記